

大阪大学ELSIセンターシンポジウム  
「科学技術イノベーションと倫理・法・社会」

命を大切にする社会を目指して  
社会ソリューションイニシアティブ（SSI）の理念と活動

2021年3月2日

大阪大学社会ソリューションイニシアティブ長  
堂目 卓生



社会ソリューションイニシアティブ (SSI)  
SOCIAL SOLUTION INITIATIVE

## 命を大切にし、一人一人が輝く社会

### まもる：

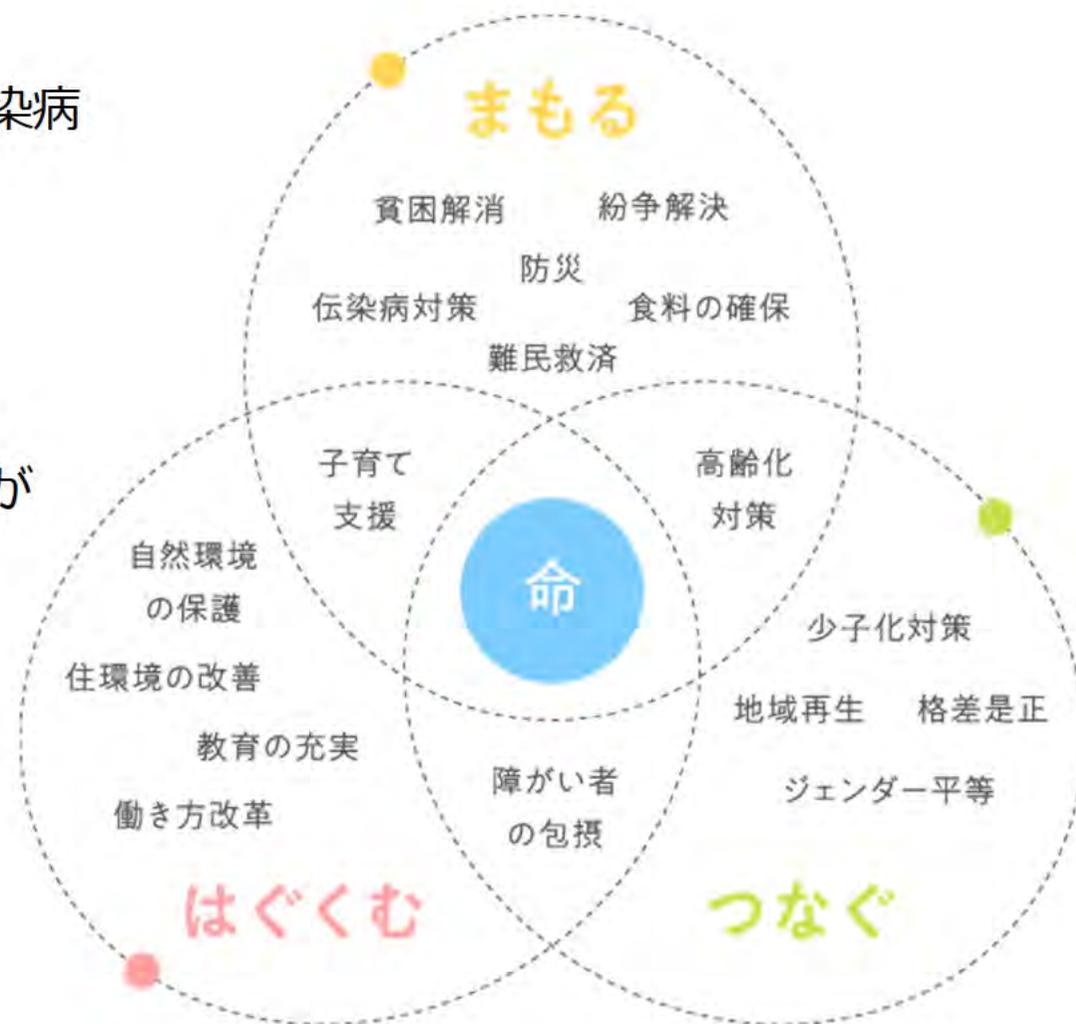
災害、戦争・紛争、犯罪、飢餓、貧困、伝染病などの脅威から、かけがえのない命を守る

### はぐくむ：

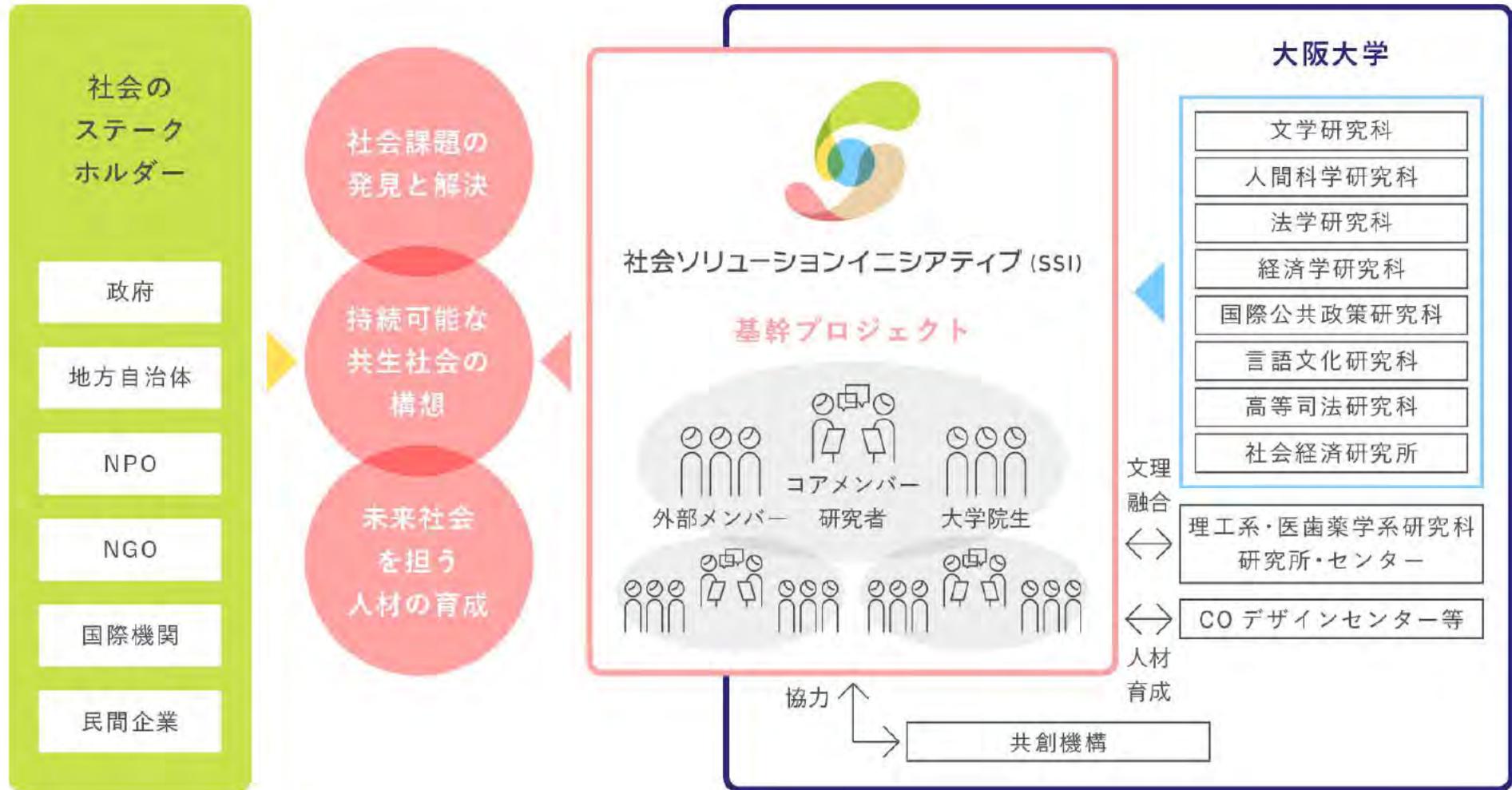
自然環境の保護、住環境の改善、教育の充実、働き方の改善などを通じて、一人一人が潜在的に持っている能力を見出し、伸ばす

### つなぐ：

共感によって人と人との絆を深め、広げる。  
過去、現在、未来へと命をつなぐ

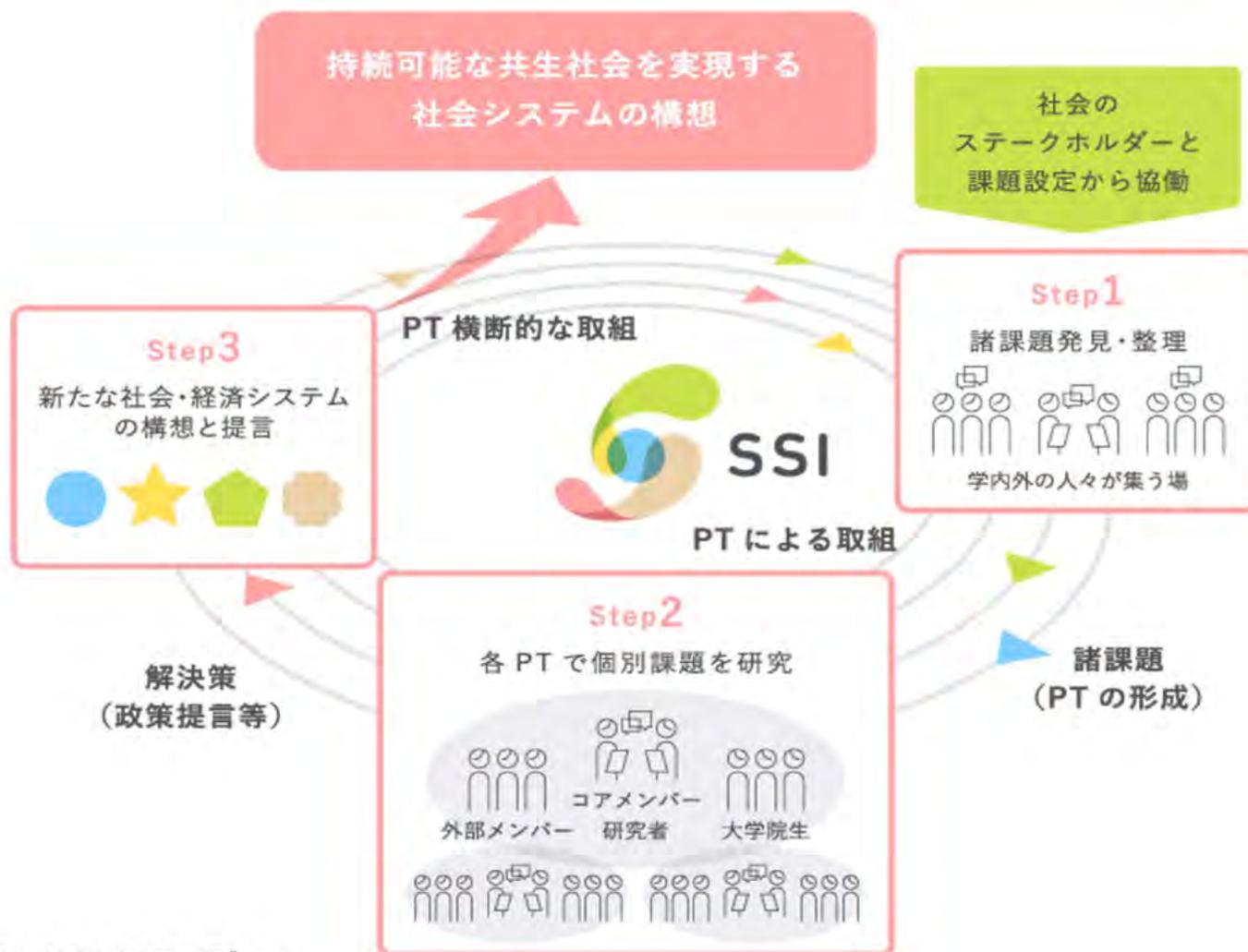


2050年を視野に諸課題の解決策を提案するシンクタンク  
大阪大学の人文社会科学系研究者を中心に2018年1月に設置



# SSIのアプローチ（取組方法）

- (Step 1) 学内外の人々が集い、社会課題を発見・整理する
- (Step 2) 発見・整理された課題ごとにプロジェクトを形成
- (Step 3) 未来にむけて新たな社会・経済システムを提案



# これまでの主な取組 (Step 1)

## 場づくり

マルチステークホルダー	学生・生徒・子ども
<p>SSIサロン (対象:研究者・実践者)</p> <p>第1回(2018/6/25) 「生と死と、命と - 超高齢社会の多様性」</p> <p>第2回(2018/7/18) 「科学技術と地域資源のコラボレーション - 支え合いの仕組みを考える」</p> <p>第3回(2018/9/20) 「国家とは、人間とは - 紛争解決は何をめざすのか」</p> <p>第4回(2018/11/1) 「科学技術と人間 - 未来社会に向けた文理融合のあり方」</p> <p>第5回(2019/1/15) 「SDGsとどう向き合うか - 30年後の社会を見据えて」</p> <p>第6回(2019/5/23) 「社会の鏡 - 子どもが与えてくれるもの」</p> <p>第7回(2019/7/25) 「『障がい』はどこにあるのか - ジャン・バニエの思想と実践」</p> <p>第8回(2019/9/26) 「センス・オブ・ワンダーと社会 - 研究はどこから生まれどこへ向かうのか」</p> <p>第9回(2019/11/21) 「アフリカ - 未来社会」</p> <p>第10回(2020/1/30) 「人と人をつなぐ人 - いかにしてはぐくむか」</p> <p>第11回(2020/7/20) 「命と生活 - コロナ禍を超えて」</p> <p>第12回(2020/10/29) 「福祉の空間化 - 命をまもり、はぐくみ、つなぐ『まちづくり』」</p> <p>第13回(2021/12/22) 「時間とは何か - 過去と未来の創造」</p>	<p>SSI学生のつどい (対象:大学院生、学部生)</p> <p>第1回(2019/6/5) 「Co-Leading Next Society 未来を構想する方法を学ぼう」</p> <p>第2回(2020/1/13) 「出る杭でも大丈夫 未来の自分を構想するために」</p> <p>第3回(2020/11/27) 「阪大SDGs学のススメ。」第1回</p> <p>第4回(2020/12/22) 「阪大SDGs学のススメ。」第2回</p> <p>第5回(2021/2/15) 「阪大SDGs学のススメ。」ワークショップ</p> <p>高校生を対象とした場の提供 特別講演(2019/10/26) SSI長堂目卓生教授 「めざすべき社会を考える - 経世済民への回帰」</p> <p>子どもたちによる未来づくりの場 (対象:就学前児童および小中学生) 第1回共創DAY(2018/11/17):100名超来訪 第2回共創DAY(2019/11/31):100名超来訪</p>
	<b>地域</b>
<p>企業・NPO</p> <p>SSI車座の会 (対象:企業やNPOなど組織とそのメンバー)</p> <p>第1回(2019/9/20) SSI長堂目卓生教授「SSIの理念と取組」 エーザイ高山千弘氏「共感に基づく経営」講演</p> <p>第2回(2019/11/26) オムロン貝崎勝氏「理念経営」講演 未来新聞森内真也氏「未来ビジョンづくり」講演</p> <p>第3回(2020/1/24) 大阪ガス津田恵氏「ダイバーシティ」「エネルギー・環境」講演 環境市民下村委津子氏「エシカル消費」講演</p> <p>第4回(2020/7/30) 楽天真々部貴之氏 「サステナブル社会で一番最初に選ばれる企業に」講演</p> <p>第5回(2020/11/26) ゲンゼ小倉誠氏「ゲンゼのCSV経営の取り組みについて」講演 立教大学経営学部准教授西原文乃氏 「ソーシャルイノベーション」講演</p>	<p>地域・まちづくりフォーラム(対象:自治体や地域のNPO)</p> <p>トライアル会合(2020/2/5):4自治体7名、教員3名、研究員3名参加 第1回会合(2021/2月16日)</p>
<b>研究者</b>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="text-align: right;">  <p>福祉の空間化 — 命をまもり、はぐくみ、つなぐ『まちづくり』</p> <p>2020.10.29 Thu. 17:00-19:30</p> </div>
<p>研究者フォーラム (対象:研究者、大学院生)</p> <p>第1回(2020/9/7) 「未来社会構想への起点を考える」</p> <p>第2回(2021/2/22) 「“いのち”に向き合う視点を考える」</p>	

# これまでの主な取組 (Step 2)

## プロジェクト

### 基幹プロジェクト

「地域資源とITによる減災・見守りシステムの構築」

リーダー: 稲場圭信 人間科学研究科教授

「教育の効果測定研究」 リーダー: 大竹文雄 経済学研究科教授

「共生対話の構築」 リーダー: 松野明久 国際公共政策研究科教授

「SDGs指標の改善を通じた環境サステナビリティの促進」

リーダー: 大久保規子 法学研究科教授

「一人ひとりの死生観と健康自律を支える超高齢社会の創生」

リーダー: 佐藤真一 人間科学研究科教授

「健康・医療のための行動科学によるシステム構築」

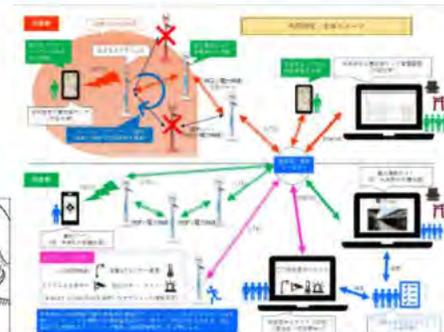
リーダー: 平井啓 人間科学研究科准教授

「アフリカの非正規市街地をフィールドとした持続型都市社会モデルの構築」

リーダー: 木多道宏 工学研究科教授

「社会課題を解決するためのコミュニケーション能力の開発」

リーダー: 山崎吾郎 COデザインセンター准教授



### 協カプロジェクト

「東南アジアと日本における持続的な食料生産と消費の構築」

リーダー: 住村欣範 グローバルイニシアティブセンター准教授

「大学と地域の生物多様性保全の実現」

リーダー: 古屋秀隆 理学研究科生物化学准教授

吉岡聡司 サステナブルキャンパスオフィス准教授

「多文化共生のまちづくりにおける学びのデザイン化拠点の創出」

リーダー: 宋悟 IKUNO・多文化ふらっと事務局長

ほんまなほ COデザインセンター教授

榎井縁 人間科学研究科附属未来共創センター教授





# これまでの主な取組(その他)

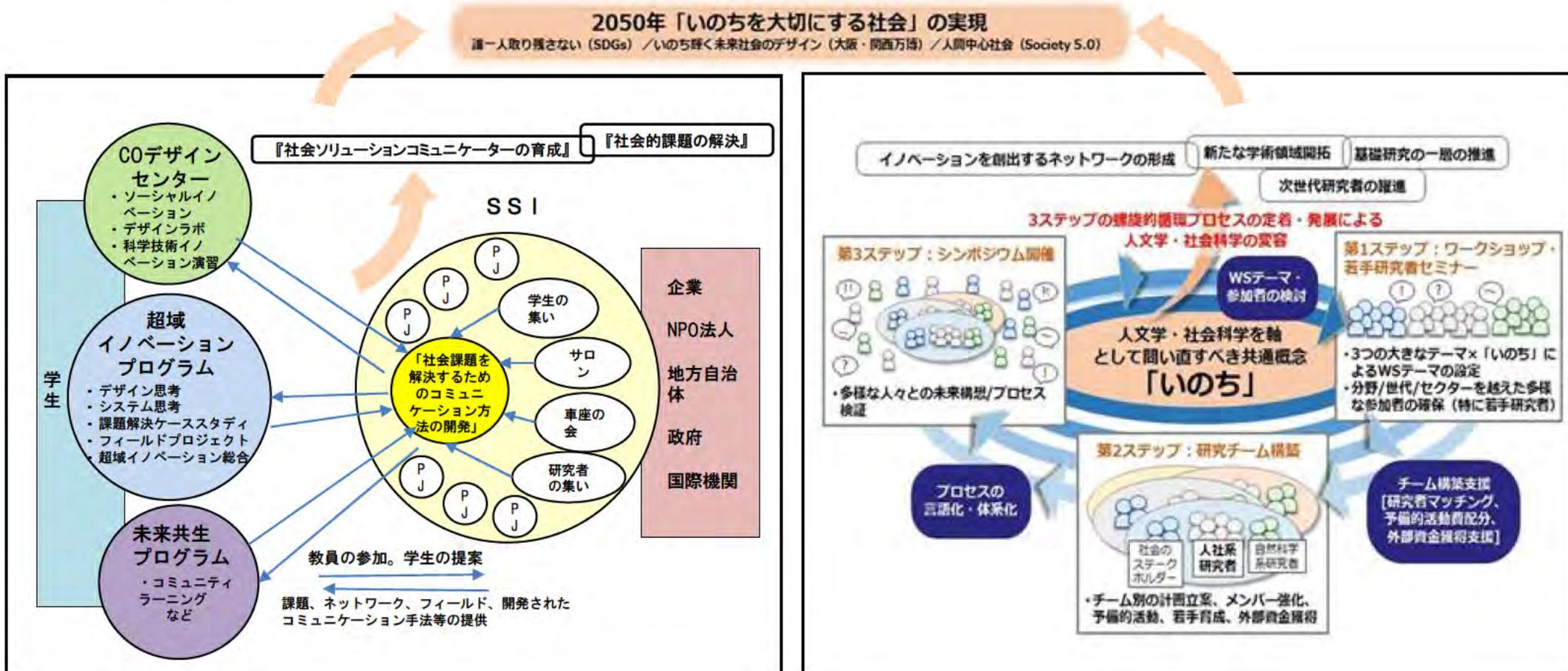
## 採択事業

文部科学省  
 「地域(実社会)課題に対するコミュニケーションの推進事業」  
 に採択(2019年度～2023年度)

社会(地域)課題の解決を行う現場での「Project-based Learning」により、知識翻訳能力、企画・調整能力、共創のためのコーディネーション能力を備えた「社会ソリューションコミュニケーター」を育成

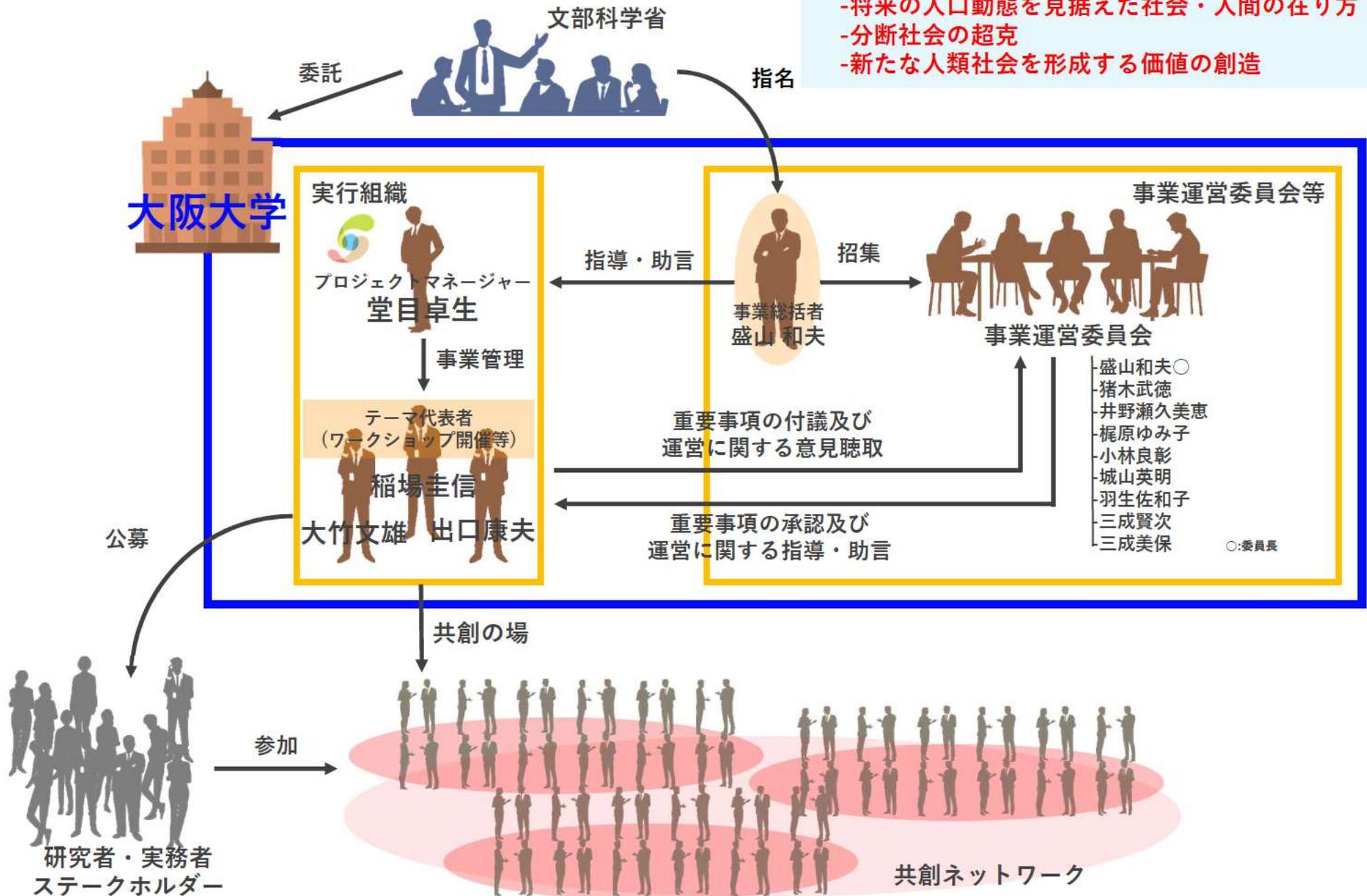
文部科学省  
 「人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト」  
 に全国唯一の機関として採択(2020年度～2022年度)

社会(地域)課題を解決し、未来社会を構想するために、人文学・社会科学の知がどのように貢献でき、何をなし得るかを考察するプロセスの体系化



# 人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクトの概要

▷大きなテーマ  
-将来の人口動態を見据えた社会・人間の在り方  
-分断社会の超克  
-新たな人類社会を形成する価値の創造



分断を超える協働の可能性が見えてきた。

## 「第1回学術知共創プロジェクトワークショップ」開催レポート



テーマ代表者: 稲場圭信(大阪大学教授)

- ◆1/24 13:00~(全面オンライン)
  - ▶参加者: 40名(1名欠席)
- ◆ワークショップ:
  - フラッシュトーク
  - 提案者トーク
  - グループディスカッション(5)
- ◆若手研究者セミナー(40代以下):
  - グループディスカッション(3)

### ◆全国から41名が参加し3つの柱で議論

「人文学 社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト」では、人文学 社会科学に携わる研究者 ステークホルダーが共創する場づくりの一環として、ワークショップを開催しています。2021年1月24日、その幕開けとなる「分断社会の超克—共感 共創 共生」がオンラインで開かれ、12の国立大学および公立私学3大学の多様な研究者に加えて、NPO 運営者や企業人41名が全国から参加しました。全員が5つのグループに分かれて議論するワークショップに加えて、40代以下の若手研究者によるセミナーも行われ、4時間半に及ぶ熱気あふれる議論の場となりました。

冒頭、テーマ代表者である大阪大学大学院人間科学研究科 稲場圭信教授がワークショップのねらいを説明。社会の様々な局面で起こる「分断」を超えるために、分断のメカニズムをとらえ直し乗り越えていく方策を探るという目標のもと、分断の心理を克服するための「共感」、科学と文化の「共創」、社会的 文化的分断を乗り越える「共生」という3つの議論の柱が示されました。その後、参加者が研究内容やワークショップへの参加動機を1分間で自己紹介するフラッシュトークが行われました。

### ◆分断をとらえる多様な視点

本編となるワークショップは、「共感」2グループ、「共創」1グループ、「共生」2グループで実施されました。共感の第1グループは、分断や格差の生まれる社会状況やメカニズム解明の第一歩として、共感とは何かということや、共感と分断との関わりを議論。第2グループでは、感性や趣味、アート思考から共感を導く可能性が示され、共感を行動に変える仕組みづくりなど多様な議論が展開されました。共創のグループでは、科学と文化間、社会と文化間の分断や、それらを結び付ける科学コミュニケーションの現状が話題にのぼりました。共生の第1グループでは、共生を定義する数式をベースに、マイノリティや人間以外のものなど幅広い観点から共生を考察。第2グループでは、多様なステークホルダーが共創するモデルケースを示しながら、共生における自発的な関わり的重要性や人文学 社会科学の課題が議論されました。後半の若手研究者セミナーでは、引き続き3つの柱に1つずつグループをつくり、ワークショップで挙げたテーマはもちろん、研究者の協働を阻むハードルについても率直な意見の交換が行われました。共感グループでは研究分野間の共通言語の必要性などが、共創グループではアカデミアと社会の各分野とが協働の目的について対話する重要性などが議論されました。また両グループともに、学際研究の評価の仕組みが未整備であることを問題として指摘。共生グループでは、苦しむ人を対象とする研究の研究倫理の問題なども提起されました。多様な視点を持つ研究者が今後どのように協働し、イノベーションとなっていくのが期待されるキックオフになりました。

3月下旬には、リニューアルしたウェブサイトの詳細なレポートを掲載予定です。ぜひご覧ください。

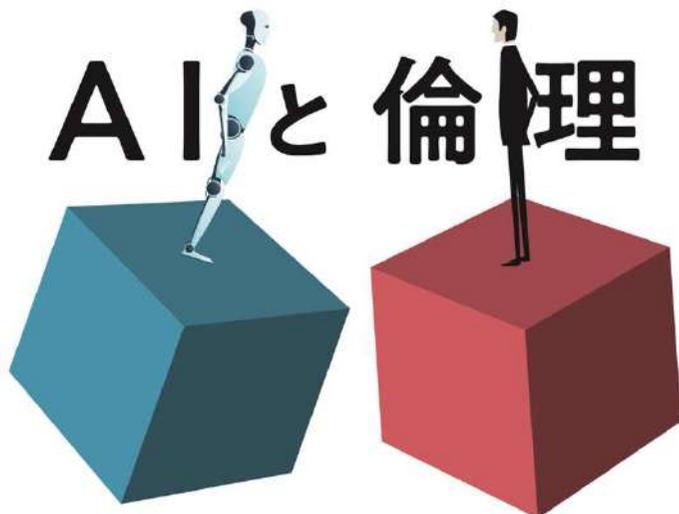
▶速報版記事リンク:

<https://gakujututi.ssi.osaka-u.ac.jp/>

文部科学省委託事業「人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト」

## 第2回 学術知共創プロジェクトワークショップ

～新たな人類社会を形成する価値の創造～ テーマ代表者：出口康夫 京都大学大学院文学研究科教授



テーマ代表者：出口康夫(京都大学教授)

### ◆1/25 13:00~(全面オンライン)

▶参加者：28名

### ◆ワークショップ：

-フラッシュトーク

-提案者トーク

-グループディスカッション(3)

### ◆若手研究者セミナー(40代以下)：

-グループディスカッション(3)

人間とは何かから、AIと社会のあり方を考える。

## 「第2回学術知共創プロジェクトワークショップ」開催レポート

### ◆人がAIと生きる世界を3つの方向から検討

「人文学 社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト」では、様々な社会課題に向き合い未来を構想するために、異分野の融合に挑戦するユニークな研究チーム発足を目標に、人文学 社会科学を中心に様々な分野の研究者 実務家が集まるワークショップを開催しています。2021年1月25日にはその第2回目として「新たな人類社会を形成する価値の創造—AIと倫理」がオンラインで開かれました。哲学 倫理学をはじめ様々な分野の研究者、AI研究や社会実装に携わる企業人、リサーチアドミニストラータなど幅広い領域から28名が集まりました。

テーマ代表者である京都大学大学院文学研究科 出口康夫教授からは、人文学 社会科学の知によってソリューションの前提となる価値の座標軸を見出し、日本 アジアを含む多元的な価値観を見直し、新たな価値を創造したいというワークショップへの期待感が述べられました。参加者が研究内容やワークショップへの参加動機を1分間で自己紹介するフラッシュトークの後、出口教授の提案した「AI倫理綱領の構想」「パラヒューマン社会の未来図」「シンギュラリティ問題と実存の危機」の3テーマについてそれぞれグループディスカッションが行われました。

### ◆三者三様の展開に議論の広がりを予感

「AI倫理綱領」のグループは、参加者が共同でAI倫理綱領を作る試みにトライ。載せるべき項目を選び綱領を記述してみる中で、AIの定義やAIのもたらす社会的影響などについて議論されました。「パラヒューマン社会」のグループでは、「人格」を持つような人間でないエージェントとの共存の可能性をテーマに、人格とは何かということや、パラヒューマン社会を考える上でペットの倫理が参考になるといったことにも話が及びました。「シンギュラリティ問題」のグループでは、AIの自律性を糸口に議論を進め、AIに痛みを持たせる必要があるか、法人など人以外に認められる人格をどう考えるかといった多彩な論点が生まれました。

第1回目のワークショップと同じく、後半には40代以下が参加する若手研究者セミナーが行われ、3つのグループそれぞれに個性的な議論が展開されました。「AI倫理綱領」のグループでは、せっかく作った綱領を批判的に見るという「ちゃぶ台返し」を通して、AI特有の倫理的な問題など様々な観点でAI倫理を考察。「パラヒューマン社会」のグループは自由に発想を広げ、人間に近い「悩むAI」「弱いAI」などの可能性にも言及しました。「シンギュラリティ問題」のグループでは、AIに判断や決断を任せてしまうことへの違和感をテーマに、そのような違和感はなぜ起こるのか、どう解消するのかについて議論されました。

AIについて考えることは人間を考えることである、ということが、様々な方向から改めて確認できるワークショップとなりました。AIを通して人間観がどのように見直されていくのか、今後とも興味深い議論が期待できそうです。

3月下旬には、リニューアルしたウェブサイトの詳細なレポートを掲載予定です。ぜひご覧ください。

2021年2月15日

▶速報版記事リンク：

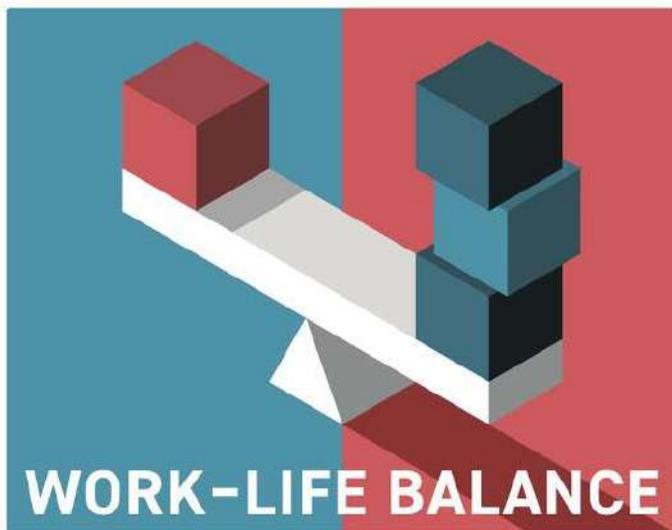
<https://gakujututi.ssi.osaka-u.ac.jp/>

文部科学省委託事業「人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト」

## 第3回 学術知共創プロジェクトワークショップ

～将来の人口動態を見据えた社会・人間の在り方～

テーマ代表者：大竹文雄 大阪大学大学院経済学研究科教授



テーマ代表者：大竹文雄(大阪大学教授)

◆2/9 13:00~(全面オンライン)

▶参加者：31名

◆ワークショップ：

-グループディスカッション(5)

-振り返り(各グループ)

ダイバーシティな議論の場で働き方の未来を描く。

「第3回学術知共創プロジェクトワークショップ」開催レポート

### ◆期待される研究者と実務家のコラボ

「人文学 社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト」では、人文学 社会科学を中心とした多様な分野の研究者と、産業界や行政をはじめとするステークホルダーが、社会が直面する課題に対して共創する場づくりの一環としてワークショップを実施しています。その第3回目となる「将来の人口動態を見据えた社会 人間の在り方-ワークライフバランス」を、2021年2月9日にオンラインで開催。経済学を中心に経営学、社会学など様々な角度からワークライフバランスの研究を進める研究者、実際に政策を推進している行政担当者や企業担当者など31名のメンバーがそれぞれの立場からの問題提起、活発な意見交換を行い、広がりとお興行きのある議論の場となりました。

冒頭、テーマ代表者である大阪大学大学院経済学研究科 大竹文雄教授がテーマ設定の意図を述べ、専門である行動経済学の研究成果を示しながらワークライフバランスという社会課題に対して協働することの意義や期待を語りました。続いて、2名の研究者から今回のワークショップの目的である、研究チームの構築方法と課題設定の視点について話題提供が行われました。前者については、大阪大学大学院人間科学研究科 平井啓准教授が、実務家と研究者の分野を超えた共同研究の経験からコラボレーションを成功に導くポイントを提起。後者については、慶應義塾大学経済学部 大垣昌夫教授が、ワークライフバランスを考えるうえで、幸福観や倫理観の視点を加える重要性を示唆しました。

次に、ダイハツ工業株式会社、住友電気工業株式会社、株式会社堀場製作所の3社の担当者が、ワークライフバランス推進状況や課題を報告。推進の歴史や職場環境の違いによる固有の課題がある一方で、働き方に対する価値観の世代間 ジェンダー間ギャップやそれによる分断といった共通の課題も浮き彫りになりました。

### ◆自由な議論から生まれる研究の芽

ワークショップは5つのグループに分かれ、各グループに研究者、企業人、行政担当者が必ず参加する形で行われました。第1グループでは、企業の協力でどのような研究ができるか、この分野での産官学研究の問題点などについて議論。第2グループでは、実効性のある政策としてトップダウンの事例訴求やメンタルヘルス防止のための先端技術などが話題にのぼりました。第3グループでは、非製造業、非大企業のモデルの必要性、個人の選択を阻害しないあり方などがテーマに。第4グループでは、ワークライフバランス推進に必要な風土と制度について議論し、風土の解析、雇用主と被用者の関係性などが論点として浮上。第5グループでは、企業が抱える課題を切り口に、ダイバーシティの評価、パフォーマンスの評価など様々な方向から研究の可能性を探りました。

グループディスカッションの後、グループごとに内容を報告。それを受けた質疑応答と全員によるフリーディスカッションを通して、論点の掘り下げや新たな視点の提供が行われたほか、さらに幅広い協働の可能性も議論され盛り上がりを見せました。ワークライフバランスへの向き合い方もそれぞれ違うメンバーの間で、今後どのように研究チームは構築されていくのが期待されます。

▶速報版記事リンク：

<https://gakujututi.ssi.osaka-u.ac.jp/>

3月下旬には、リニューアルしたウェブサイトの詳細なレポートを掲載予定です。ぜひご覧ください。

文部科学省委託事業「人文学・社会科学を軸とした学術共創プロジェクト」  
キックオフ・シンポジウム (第3回SSIシンポジウム)



## 命に向き合う 知のつながり — 未来を構想する大学

地球温暖化、天然資源の枯渇、食糧不足、新型の感染症など、人類の存続にとって深刻な課題が山積する中、学術、特に「人間とは何か」、「社会はどうあるべきか」を問う人文学・社会科学に対して、社会課題に向き合い未来を構想することが求められています。今年度、この期待に応えるために提案された文部科学省の委託事業「人文学・社会科学を軸とした学術共創プロジェクト」に大阪大学が採択され、社会ソリューションイニシアティブ(SSI)が企画運営を担うことになりました。シンポジウムでは、大阪大学元総長の鷲田清一名誉教授に講演していただくとともに、様々な大学に関連する活動を紹介していただき、未来を切り拓く大学間ネットワークの構築につなげたいと思います。

2021.3.16 Tue. 13:00-18:00 ○参加費：無料 ○定員：500名

オンライン  
開催

### 第1部「人文学・社会科学の可能性」

- 13:00 開会の辞  
西尾幸治郎 大阪大学総長
- 13:10 来賓挨拶  
杉野 剛 文部科学省研究振興局長
- 13:20 プロジェクトの概要説明  
盛山和夫 事業総括者/東京大学名誉教授
- 13:30 今年度の活動報告  
堂目卓生 プロジェクト・マネージャー
- 13:45 講演「学問と社会 再論」  
鷲田清一 大阪大学元総長/名誉教授

### 第2部「未来を切り拓く大学間共創ネットワークの構築に向けて」

- 15:00 事例紹介  
堂目卓生 大阪大学 社会ソリューションイニシアティブ長  
出口康夫 京都大学 人社未来形発信ユニット長  
田口 茂 北海道大学 人間知×脳×AI研究教育センター長  
大竹尚登 東京工業大学 未来社会DESIGN機構副機構長  
小林信一 広島大学副学長
- 16:25 パネルディスカッション  
堂目卓生、出口康夫、田口茂、小林信一、佐藤 勲 東京工業大学 未来社会DESIGN機構長  
モデレーター：井野瀬久美恵 甲南大学文学部教授
- 17:55 閉会の辞 三成賢次 大阪大学理事・副学長

参加申込はこちらから

or

クリック

<https://forms.gle/c87AVU4iAKk4n07>

## 登壇者プロフィール

### 基調講演



鷲田 清一 (わしだ きよかず) 大阪大学名誉教授  
テーマ：「学問と社会 再論」

1949年、京都市生まれ、京都大学大学院文学研究科博士課程修了。大阪大学教授、同総長、京都市立芸術大学理事長・学長等を歴任。元日本倫理学会会長。現在、せんだいメディアテーク館長、サントリー文化財団副理事長。専門は、臨床哲学・倫理学。主な著書に「『悲』こと力」、「メルロー＝ポンティ」、「哲学の使い方」、「待つということ」、「つかよ、使用論ノート」など。サントリー学芸賞、読売文学賞、桑原武夫学芸賞を受賞。

### パネルディスカッション

「未来を切り拓く大学間共創ネットワークの構築に向けて」

◆モデレーター | 井野瀬 久美恵 (いのせ くみえ) 甲南大学文学部教授

京都大学大学院文学研究科(西洋史学専攻)博士課程単位取得退学。博士(文学)。専門はイギリス近現代史・大英帝国史。「植民地経験のゆくえ——アリス・グリーン」のサロンと世紀転換期の大英帝国」(人文書院、2004)で女性史青山女賞を受賞。「子どもたちの大英帝国」(中公新書、1992)、「大英帝国という経験」(講談社、2007;講談社学術文庫、2017)など著書多数。



◆小林 信一 (こばやし しんいち)

広島大学副学長(人間社会科学担当)  
テーマ：「組織と分野の垣根を超えて——広大の挑戦、私の挑戦」



筑波大博士課程単位取得退学。専門は科学技術政策、高等教育政策、科学技術論。東工大、電通大、NISTEP、筑波大、JST(社会技術研究立上げ)産総研、国会図書館(科学技術に関する調査プロジェクト立上げ)等を経て2018年より広島大学高等教育研究開発センター長、本年度から人間社会科学研究所長を兼ねる。科学技術分野の文部科学大臣表彰・科学技術賞(科学技術振興部門)受賞。

◆佐藤 勲 (さとう いさお)

東京工業大学未来社会DESIGN機構長/  
総括理事・副学長



1984年 東京工業大学大学院理工学研究科博士課程中途退学。1989年 工学博士。2000年 東京工業大学大学院教授。専門は熱工学。2008年 理事・副学長(研究担当)総括補佐。2012年 教育研究評議員。2011年 グローバルリーダー教育院長。2014年 副学長(国際企画担当)。2017年 副学長(戦略構想担当)。2018年から総括理事・副学長、理事・副学長(企画担当)ならびに未来社会DESIGN機構長の任にある。

◆田口 茂 (たぐち しげる)

北海道大学人間知×脳×AI研究教育センター長  
テーマ：「(新しい)人間知の開拓——北海道大学人間知×脳×AI研究教育センター(CHAIN)の試み」



ヴァーバール大学(ドイツ)大学院哲学科博士課程修了。哲学博士(Dr. phil.)。北海道大学大学院文学研究科教授。専門は哲学。特に現象学。近年は数学者・神経科学者・ロボット工学者らと「意識」や「自己」をめぐる学際的的共同研究を行っている。CHAINでは大学院生向けの文理融合的教育プログラムも展開している。主要著書『Das Problem des "Uch" bei Edmund Husserl』(Springer, 2006)。「現象」とは何か——数学・哲学から始まる世界観の転換」(西郷甲夫氏との共著、筑摩書房、2019)他。

◆大竹 尚登 (おおたけ なおと)

東京工業大学未来社会DESIGN機構副機構長  
テーマ：「未来社会との向き合い方を探る——東京工業大学DLabの活動事例」



1986年 東京工業大学工学部機械工学科卒業。1992年 博士(工学)。同大学助手、助教、名古屋大学助教、准教授を経て、2009年 東京工業大学准教授。2010年 同大学教授。2015～18年に副学長を兼任。2020年度から同大学未来社会技術研究所長。専門は機能材料と材料加工。同大学未来社会DESIGN機構副機構長として未来社会、未来社会の作成に取り組み。

◆出口 康夫 (でぐち やすお)

京都大学人社未来形発信ユニット長  
テーマ：「価値の座標軸を構築する人文学・社会科学——京大人社ユニットの取り組み」



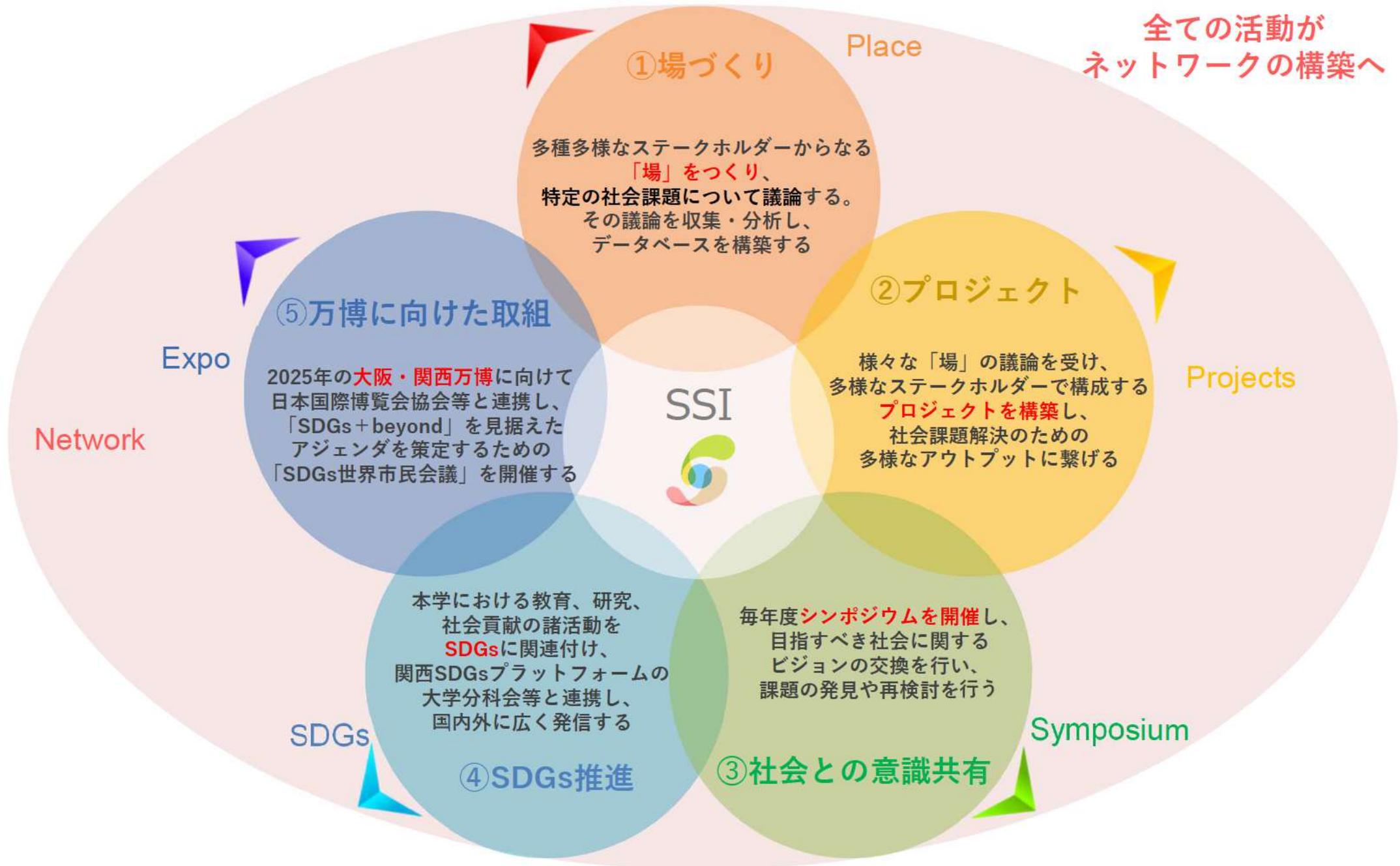
専攻は哲学。京都大学大学院文学研究科博士課程修了。博士(文学)。現在、同大学院哲学専攻教授・京都大学副ボス、教壇哲学に加え、新領域である分析アジア哲学を研究。近著に『What Can't Be Said: Contradiction and Paradox in East Asian Thoughts』(Oxford University Press, 2021)がある。京都大学人社未来形発信ユニット長としてオンライン講義シリーズ「立ち止まって、考える」を生導すると共に、NTTや日立製作所との産学連携も打っている。

◆堂目 卓生 (どうめ たくお)

大阪大学社会ソリューションイニシアティブ長  
テーマ：「命を大切にすることを目指して——SSIの理念と活動」



京都大学大学院経済学研究科博士課程修了。経済学博士。専門分野は 経済学、経済思想。『Political Economy of Public Finance in Britain 1767-1873』(Routledge 2004)で日経・経済図書文化賞、「アダム・スミス——「道徳感情論」と「国富論」の世界」(中央公論新社、2008)で、サントリー学芸賞を受賞。2019年、新設賞。2001年より大阪大学教授。2018年より社会ソリューションイニシアティブ(SSI)長。



# SSIが目指す目標・目的・究極目的・社会

目指す社会

命を大切にし一人一人が輝く社会

究極目的

社会の様々なステークホルダー1000人からなる  
「共創ネットワーク」の構築（2027年）

目的

社会の様々なステークホルダーと社会（地域）課題の解決に取り組むネットワークを構築する

人文学・社会科学を軸とした文理融合型の学際研究を推進し、研究者間のネットワークを拡張する

本学の教育、研究、社会貢献の諸活動をSDGsに関連づけて国内外に発信し、社会とのネットワークを拡張する

2025年万博に向けて、「SDGs世界市民会議」を開催し、グローバルなネットワークを形成する

目標

③ シンポジウムを開催する

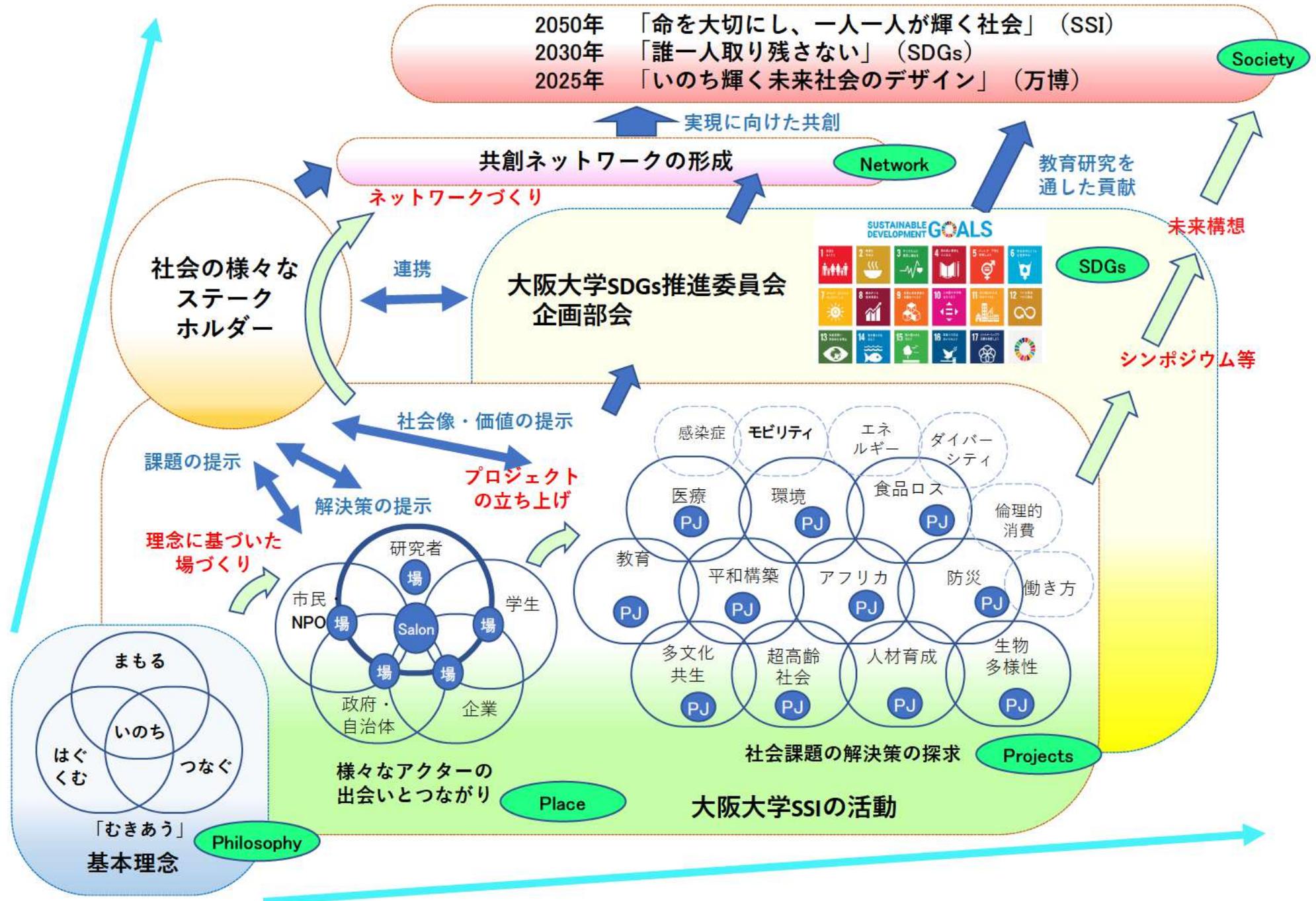
② 3～5年の期間のプロジェクトを構築する

① 様々な形で共創の場を提供する

④ SDGsに係わる学内の優れた活動を発掘し、ホームページ等を通じて社会に発信する

⑤ 「SDGs世界市民会議」を開催する

# 大阪大学社会ソリューションイニシアティブ (SSI) のこれまでとこれから



# SSIとELSIの関係

